

政策番号	10	政策分野	農林業
------	----	------	-----

基本方針	<p>高齢化や後継者不足，農地や森林の荒廃進行に対処するため，職業として魅力ある農林業を再構築し，その魅力を発信することによりさまざまな担い手を確保する。</p> <p>また，農林業のもつ多面的機能の維持と発揮により，資源循環型産業として社会や環境に貢献するとともに，市民の農林業に対する期待にこたえるため，市民の農林業への参画や農林業を通じた自然とのふれあいの機会を創出していく。</p>
------	---

担当局	産業観光局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する 主な分野別計画等	京都市農林行政基本方針
--------------------	-------------

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	25 年度	26 年度	27年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	農業粗生産額(百万円)	14,834	18,000	a	a	14,976	16,361	17,364	94.2%	a
2	林業粗生産額(百万円)	775	950	b	c	465	469	849	55.2%	c
				a	b					b

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	25年度	26年度	27年度
1001	産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成(2指標)	a	a	a
1002	環境や社会に貢献できる農林業の育成(2指標)	a	a	a
1003	市民との共汗で築く農林業(1指標)	a	a	a
(3施策平均)		a	a	a

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)	25年度	26年度	27年度
	—	a	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		25年度	26年度	27年度
1	京都の農林業が魅力を増し，後継者や新たな担い手が育っている。	d	d	d
2	京都の農林業は，環境に負荷をかけない栽培の取組や森林の整備を通して，地域社会に役立っている。	c	c	c
3	市民農園や森林を守る運動，学校の体験学習などにより，京都の農林業が身近になってきている。	d	c	d
市民生活実感調査総合評価		d	c	d

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

25年度		26年度		27年度	
順位	%	順位	%	順位	%
24	74.9%	23	74.8%	25	71.9%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
<p>【客観指標】●農業粗生産額については、日本全体の農業総産出額は前年度から増加しており、本市においても、引き続き中山間及び都市的農業地域における農産物の生産拡大等に取り組むことにより、生産額が増加し、3年連続a評価と高い評価で安定している。</p> <p>●林業粗生産額については、日本全体の林業産出額は前年度から増加しているが、本市においては、材木市場の取引量や流通価格に僅かな上昇が見られたものの、全体としては前年度並みとなり、評価としては2年連続c評価となった。</p> <p>【市民の実感】●農林業の後継者や新たな担い手については、産業としての農林業に対する支援が主体となる施策であるため、市民生活において実感しにくいことから、3年連続d評価と低い評価が続いている。</p> <p>●農林業の地域社会における有用性については、森林整備や「京の旬野菜」消費による環境負荷抑制効果が、市民生活において実感しにくい面があるため、3年連続c評価が続いている。</p> <p>●市民農園の整備や森林を守る運動等の取組が、市民生活において実感しにくい面があるため、前年度のc→d評価となった。</p> <p>【総括】●客観指標が市民の実感を上回る結果となった。</p> <p>●農林業の多面的機能やより身近な農林業の取組を市民に発信する余地はあるものの、政策の目的はかなり達成されていると評価する。</p>		26年度	B
		25年度	C

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		25	26	27
1001	産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成	B	B	B
1002	環境や社会に貢献できる農林業の育成	B	B	B
1003	市民との共汗で築く農林業	B	B	B

<今後の方向性>

- 産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成に向け、京都らしい農林業の振興や新規就農者の支援・育成、地域産材の普及促進、有害鳥獣による被害解消に向けた抜本的な取組を更に推進するとともに、市内産農林産物の更なる利用を促進するため、観光業や飲食業といった他産業との連携及び6次産業化等により、新たな販路の開拓を行う。
- 農林業が環境や社会に貢献できるよう、旬野菜の魅力の発信、間伐材をはじめとする森林バイオマスの利活用推進や、企業・市民団体等との協働による四季の彩りが感じられる三山の再生など、農林業の多面的機能を今後もまちづくりに活用する。
- 市民の農林業への参加と理解の促進に向け、農林業に触れる機会の創出や関係団体等との連携による農地・林業の保全、食文化の継承など食育活動との更なる連携を図る。

政策名	10	農林業
-----	----	-----

指標名	農業粗生産額（百万円）
-----	-------------

担当部室	農林振興室	連絡先	222-3351
------	-------	-----	----------

1 指標の説明

市内農業によって得られた年間の粗生産額

2 指標の意味

産業として魅力があり、環境や社会に貢献するとともに、市民参画が推進された農林業の構築状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 14,834	平成32年度目標値 18,000	根拠 京都市農林行政基本方針の平成31年度目標値
------------------	---------------------	---------------------	-----------------------------

	前回数値 24年度	最新数値 25年度	推移	単年度目標値		達成度
				数値	根拠	
数値	14,976	16,361	1,385百万円減	17,364	京都市農林行政基本方針の目標達成のために当年度達成すべき数値＝平成19年度現況値（16,474百万円）と京都市農林行政基本方針の目標数値（平成31年度18,000百万円）から各年度の目標数値を等差的に算出	94.2%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		18,000	31年度	90.9%	京都市農林行政基本方針

備考	算定に用いるデータの収集期間の関係から、平成25年度値が最新となる。
----	------------------------------------

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会経済情勢及び自然環境条件の影響度が高いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

25	26	27
a	a	a

指標名	林業粗生産額（百万円）
-----	-------------

担当部室	農林振興室	連絡先	222-3351
------	-------	-----	----------

1 指標の説明

市内林業によって得られた年間の粗生産額

2 指標の意味

産業として魅力があり、環境や社会に貢献するとともに、市民参画が推進された農林業の構築状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 775	平成32年度目標値 950	根拠 京都市農林行政基本方針の平成31年度目標値
------------------	------------------	------------------	-----------------------------

	前回数値 24年度	最新数値 25年度	推移	単年度目標値		達成度
				数値	根拠	
数値	465	469	4百万円増	849	京都市農林行政基本方針の目標達成のために当年度達成すべき数値＝平成19年度現況値（707百万円）と京都市農林行政基本方針の目標数値（平成31年度950百万円）から各年度の目標数値を等差的に算出	55.2%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		950	31年度	49.4%	京都市農林行政基本方針

備考	算定に用いるデータの収集期間の関係から、平成25年度値が最新となる。
----	------------------------------------

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会経済情勢及び自然環境条件の影響度が高いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

25	26	27
b	c	c